

# 天文台構内古墳(三鷹市)

ここは三鷹市にある国立天文台の入口/この構内に天文台構内古墳が所在する



構内に入って左手に行くと説明坂が立っている



# 天文台構内古墳

この古墳は土を盛って造られ、周田を巡る堀(周溝)によって方形に区画された1段目と、その上に円形の2段目が築かれた「上円下方墳」と呼ばれる古墳のひとつの形です。

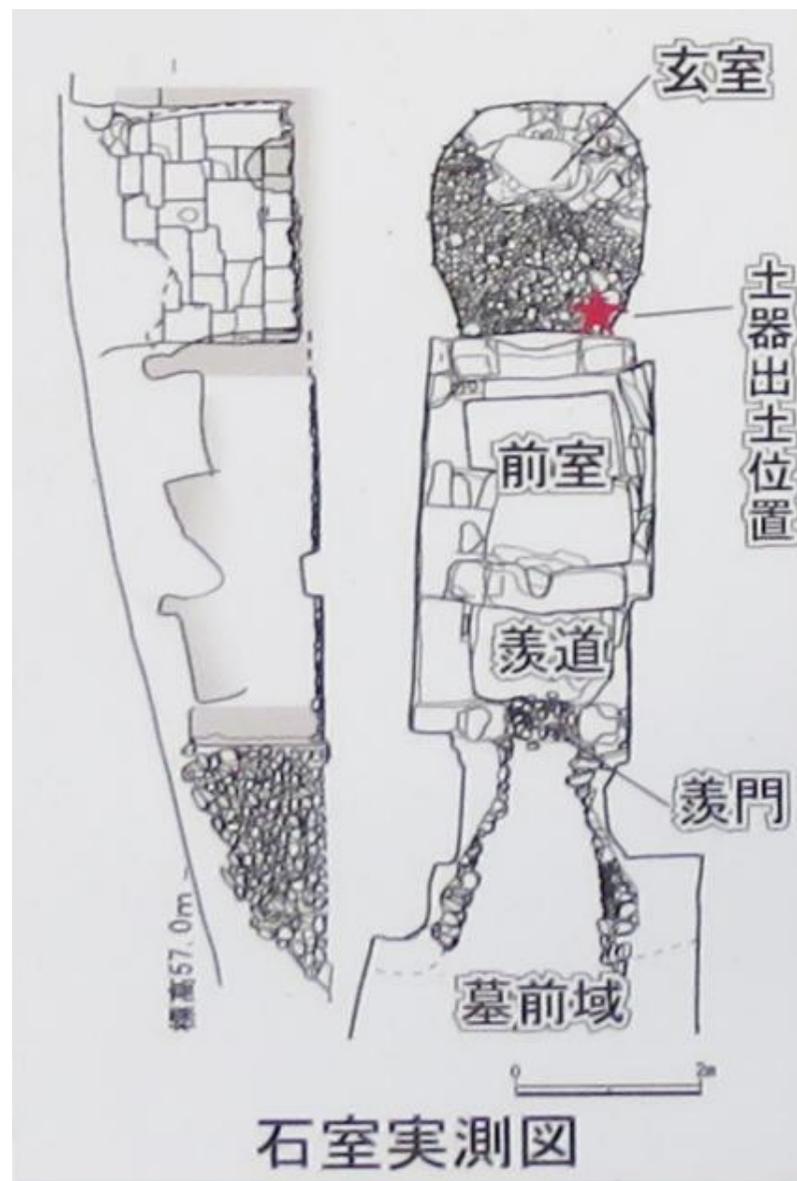
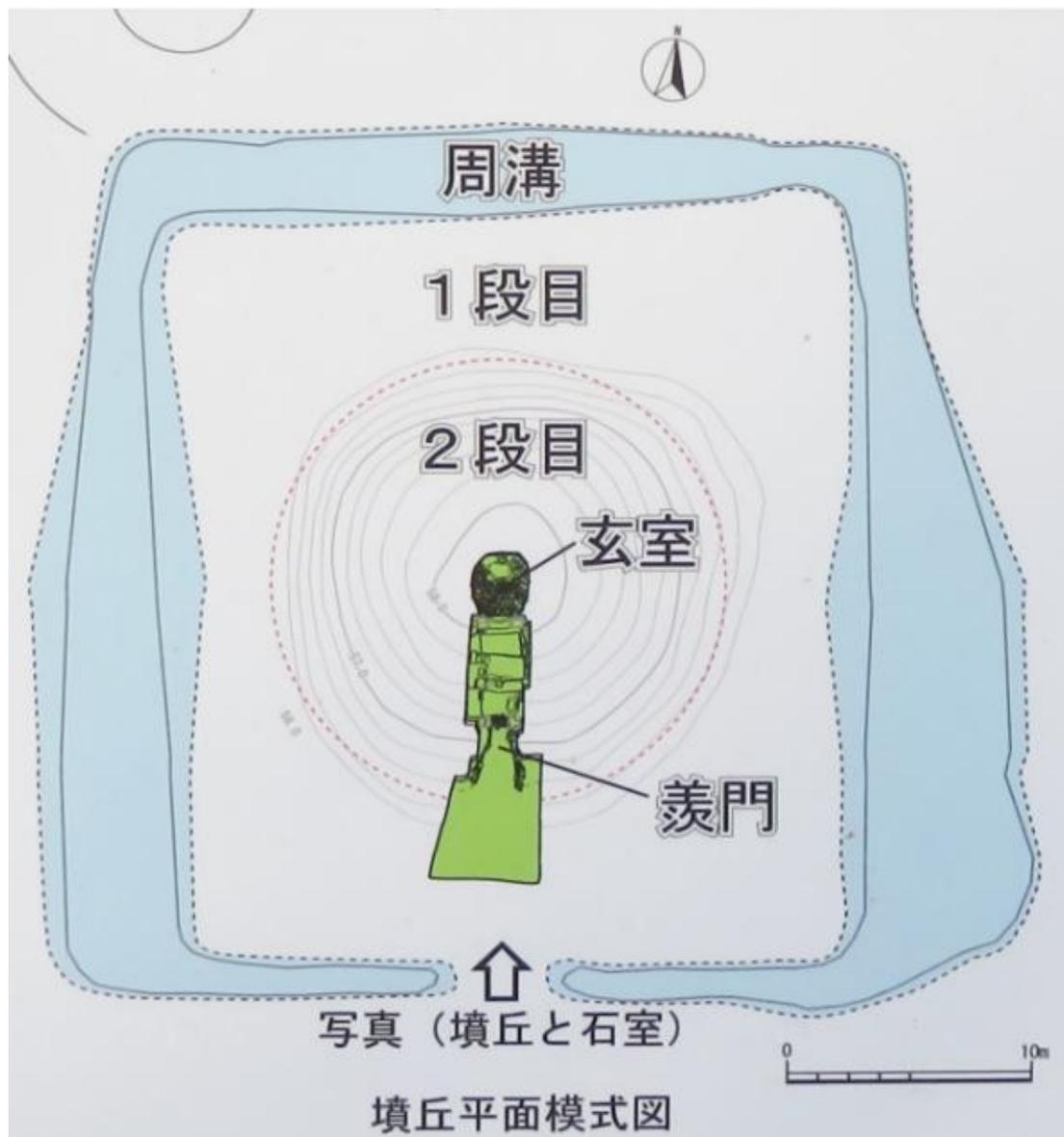
墳丘内部に築かれた横穴式石室は、切石を用いていること、遺体を安置する玄室及び前室と羨道の複数の部屋を有すること、玄室の平面形が三味線の胴のように外側に張り出していることも大きな特徴です。また、墓前域の両側壁の石積み施設はこの地域の石室の特徴です。

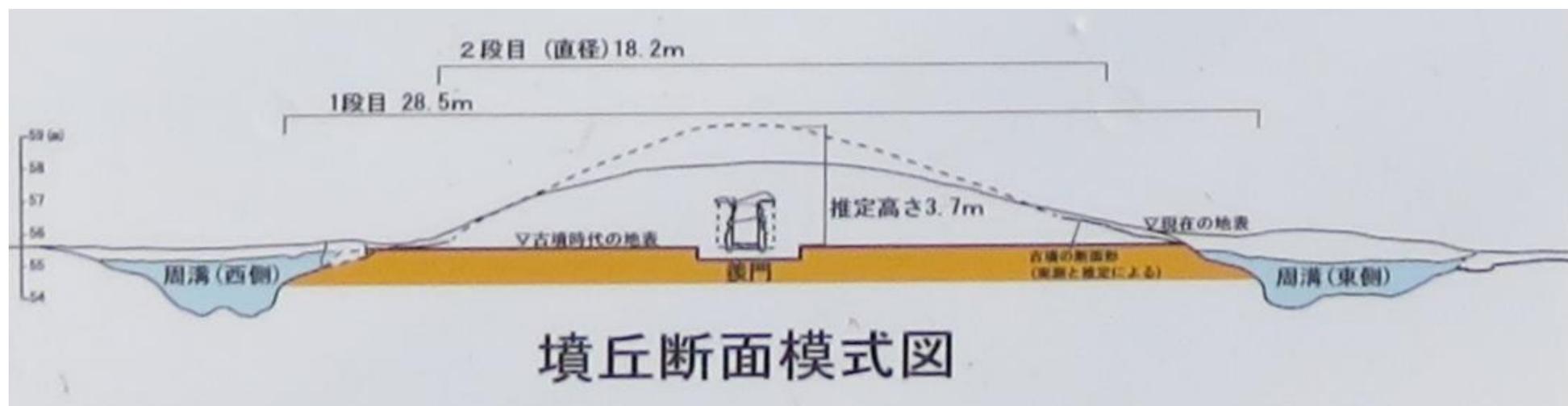
玄室の床面に副葬品の須恵器(フラスコ形長頸壺)と土師器(坏)が発見され、これらの土器の想定される年代が7世紀の中頃(651~675年)であることから、その頃に造られた古墳と考えられます。

前方後円墳など大形古墳が造られなくなった古墳時代終末期に、上円下方墳の武蔵府中熊野神社古墳(府中市)や、石室の形が似ている北大谷古墳(八王子市)とともに、この地域を治めていた豪族の墓と考えられます。

三鷹市 0422-45-1151









墳丘と石室（↑の位置から）



須恵器・土師器（西から）



羨門付近（南から）

その説明坂の左手に墳丘があるようだ



左手に入っていくと墳丘が見えて来た



これが天文台構内古墳/7世紀中頃築造の上円下方墳/南側から見たところ



これは東側にある第一赤道儀室(登録文化財)越しに見たところ



アップで見たところ



これは外の道路側から天文台構内古墳の方向を見たところ/ここから近いはずだが、木々があって良く見えない



参考ホームページ

[http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/t\\_tamak\\_tenmon/](http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/t_tamak_tenmon/)

<http://massneko.hatenablog.com/entry/2015/11/28/212036>

<http://gogohiderin.blog.fc2.com/blog-entry-187.html>

<https://blog.goo.ne.jp/kurihira201/e/9b34415405e4b2eeac4b764a0db02060>

<http://kohun.academy.jp/tenmondaikonai-kohun/>

<http://www2.odn.ne.jp/kofun/tenmondai.htm>

<http://obito1.web.fc2.com/futyuu.html>

